

4/1 『イエス死からよみがえる』(ヨハネ20:1~10)

長谷川 望 牧師

イエスが死んで葬られた墓に最初に来たのはマグダラのマリヤであった。

(他の福音書にあるように数人の女性である可能性はある) ヨハネはこのマリヤに焦点を当てて書いている。彼女は墓の入口の大きな石がすでに取り除けられているのを見てびっくりした。誰かがイエスのからだを盗んでいったと咄嗟に思った。急いで弟子たちの所に帰り、報告する。ペテロと「主の愛する弟子」(恐らくヨハネ)は走って墓につき、そこにからを包んでいた亜麻布とそれとは別の、頭に巻かれていた布を見つけたが、主のご遺体はなかった。誰かが運び出したとか、イエスは死んでいなかったのだとか、様々な説が流れるが、よみがえられたということしか説明がつかない。復活は事実であった。

*「そのとき、先に墓に着いたもうひとりの弟子も入って来た。そして、見て、信じた。彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかったのである。(ヨハネ20:8~9)」イエスは弟子たちや女性たちに「わたしは多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならない」と何度か語っておられたが、到底信じることができなかつた。しかし、今、十字架を見、目の前にイエスのからだがないことを見たとき、始めてイエスのことばが本当だったことに気がついたのである。

*イエスの復活のからだは、元のような人間のからだではなく、死なない、栄光のからだになっていたのである。イエスの復活の意味は次の5つに集約されると思う。

1. イエスは神の御子であることが証明された。
2. イエスは今も生きておられる。
3. 私たちの救い(罪の赦しと永遠のいのち)が保証された。
4. 私たちも終わり日には栄光のからだに変えられる。
5. 弟子たちの福音伝道の原動力になった。

*私たちの信仰の根幹である主の復活を喜び、ともに祝おう。